



Oak Wind Symphony

第35回 定期演奏会

2018年6月3日(日)
鎌倉芸術館 大ホール

主催：オーク・ウインド・シンフォニー
後援：鎌倉市

ごあいさつ

Oak Wind Symphony

団長 竹内 連

本日はお忙しい中、私どもの演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

私どもOak Wind Symphonyは、前身である柏陽高校吹奏楽部OBバンドでの約18年の活動後、2000年8月に一般バンドとして誕生して18年目を迎えました。年2回の定期演奏会のほか、毎年夏の吹奏楽コンクールにおいては、これまでに神奈川県代表として東関東大会に通算9回出場という実績を残してきました。ここ横浜の地でこのように長く安定的に活動できますのも、ひとえに皆様の温かいご支援の賜物と団員一同心より感謝申し上げます。

本日の演奏会は全3部構成となっております。第1部は今年度の吹奏楽コンクールで演奏する予定の曲を中心に、第2部はいよいよ今月開幕するサッカーW杯ロシア大会における日本代表の活躍を祈念した企画ステージ、クライマックスの第3部ではブラスバンドおよび吹奏楽を中心に手がけるイギリスの作曲家、フィリップ・スパーク氏の大作に挑みます。鎌倉芸術館のような立派なホールで演奏させていただける喜びを噛みしめながら、思い切ったサウンドを皆様にお届けできればと思います。

最後になりましたが、日頃より熱心にご指導いただいている榮村正吾先生と、本日の演奏会に後援いただいている鎌倉市、そしてご来場の皆様に厚く御礼申し上げます。

常任指揮者

榮村正吾

1991年東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。

在学中に安宅賞受賞、東京文化会館新人音楽会に出演。シエナ・ウインド・オーケストラのサクソフォーン奏者として1年間活躍。卒業後アサヒビール芸術文化財団の助成金を受け渡仏。フランス国立セルジー・ポントワーズ音楽院高等科に入学。1992年、パリ国際コンクール第2位受賞。同年同音楽院を首席で卒業、1993年、レオポルド・ベラン・コンクールにおいて第1位および大賞受賞。同年同音楽院演奏科を修了。

フランスをはじめ、ベルギー、イタリア、デンマーク等ヨーロッパ各国において演奏会、音楽祭に出演、好評を博す。帰国後東京文化会館において第1回リサイタルを開催。NHK-FM土曜リサイタルに出演。第10回ワールドサクソフォーンコンGRESS（イタリア）、同第11回（スペイン）にそれぞれ参加。

サクソフォーンを佐藤典夫、大室勇一、富岡和男、須川展也、ジャン＝イブ・フルモーの各氏に師事。

現在、シエナ・ウインド・オーケストラサクソフォーン奏者、昭和音楽大学講師など幅広く、精力的に活動している。

司会

金重陽平

■プロフィール

俳優。 1982年 岡山生まれ。

2008年、25歳で初舞台。以降、年2〜3本のペースで小劇場に立つ傍ら、TVドラマ、映画などにも出演。

役者以外にも、ナレーション、司会なども受注している。何も無い日はアルバイトをこなす。

下高井戸在住、独身。

■所属先HP

<http://ayersrock.jp/>



第 1 部

バンドのための贈り物

Legacy for Band

クロード・スミス

Claude T. Smith

エレウシスの祭儀

Eleusinian Mysteries

咲間貴裕

Takahiro Sakuma

翠風の光

La saison lumineuse du vent vert

長生 淳

Jun Nagao

第 2 部

企画ステージ BRASS de FOOTBALL

第 3 部

宇宙の音楽

Music of the Spheres

フィリップ・スパーク

Philip Sparke

PROGRAM NOTES

バンドのための贈り物

クロード・スミス

「華麗なる舞曲」、「フェステヴァル・パリエーション」などを手掛けたクロード・スミスの楽曲。

疾走感あふれるオープニングから一点ゆっくりとした美しい旋律が木管楽器から金管楽器へ引き継がれます。その後オープニングと同様のテーマに移りますが、グランドキャニオンを思わせる雄大さもあればブロードウェイに似るような華やかさ、威風堂々とした力強さも感じさせ、まさにスミスが吹奏楽の為に残してくれた「贈り物」のように感じます。曲の後半はバンド全体の疾走感がこれから起こる演奏会への期待感を感じさせてくれるオープニングにふさわしい楽曲をお楽しみください。

(Alto Saxophone／長島央和)

エレウシスの祭儀

咲間貴裕

2018年度全日本吹奏楽コンクール課題曲として発表され、第10回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール第1位作品です。タイトルの「エレウシス」とは古代ギリシャの地名です。豊穡の女神デーメーテルを信仰する宗教的儀式がこの地で行われていました。

ギリシャ神話には、デーメーテルとその娘ペルセポネーのお話があります。娘を冥界の王ハーデースに略奪され、それに激怒したデーメーテルによって大地は実りを失います。娘が返されて再び大地は豊穡に恵まれますが、1年のうち三分の一は冥界で過ごすことになったため、穀物が芽吹かない冬季が生まれたと言われています。

作曲者の咲間貴裕氏の解説によると、本作品ではデーメーテルの「怒りの心的描写」や「祭儀の舞踏的な様子」を表現しています。

(B♭ Clarinet／志水玲子)

(第1部)

翠風の光

長生 淳

この作品は、2002年にヤマハ吹奏楽団浜松のために作曲されました。2000年に作曲された「波の穂」、2001年作曲の「蒼天の滴」、さらに2003年の「楓葉の舞」を合わせた四作品で四季をイメージした連作になっています。3曲目にあたるこの「翠風の光（「すいふうのひかり」と読みます）」は夏、それも陽の光が一際輝き、緑が映え、爽やかな風が心地よい初夏をイメージした作品となっています。

ただし、全体の4つの楽章のうち、夏らしさを感じることができるのは、最後の第4楽章だけです。そこまでの3つの楽章は、夏に向かうまでの心の移ろいのようなものを表していると言えます。

第1楽章 「ドレント」

悲劇的な前奏に続き、悲壮感を持ったまま、厳しいリズムが打ちつけられます。

第2楽章 「ラルゲット」

ピアノの伴奏に導かれて、ソプラノサックスが呟くように歌います。続く木管楽器やホルンのメロディも寂しげに響きます。

第3楽章 「モデラート」

幻想的なマリンバのフレーズに誘われて、少しずつ様々な楽器が加わっていきます。憧れだった夏の到来は次第に確信に変わり、大きく盛り上がったまま、次の楽章につながります。

第4楽章 「ヴィーヴォ」

ようやく訪れた夏の息吹に、喜びが爆発します。今まで出てきたフレーズも躍動感に満ち溢れたものに変容し、夏の到来を祝います。

途中で一度苦しかった過去を振り返りますが、最後は再び勢いを増し、壮大に曲を閉じます。

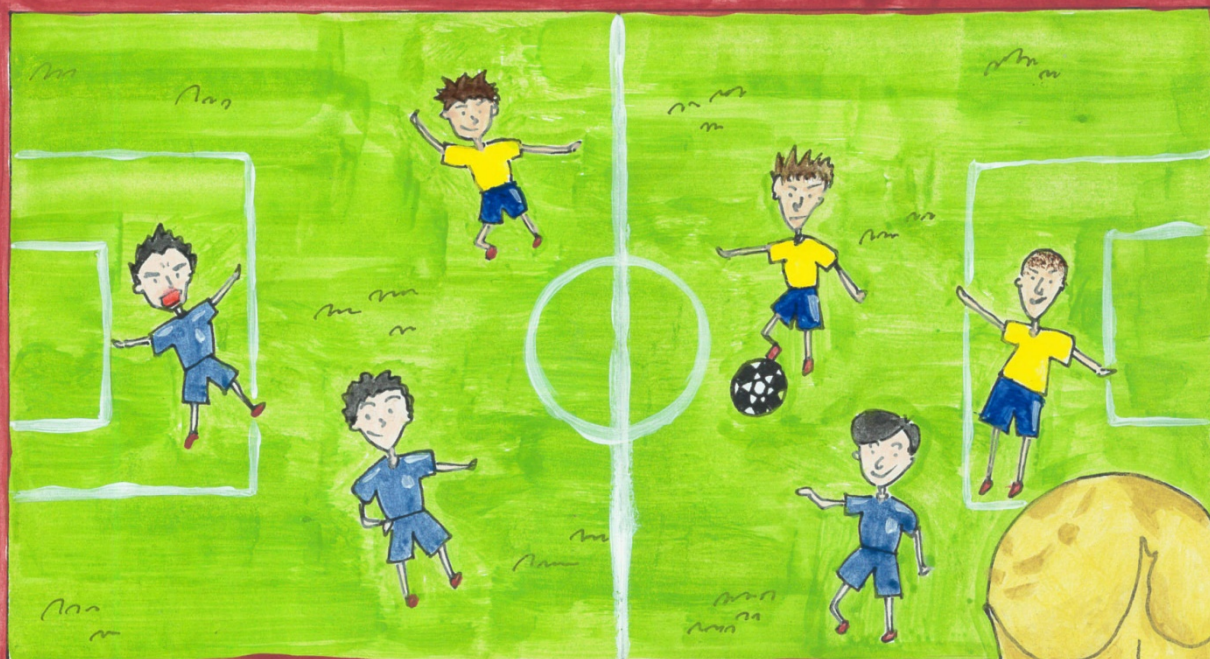
(Percussion／志水栄雄)

第2部 企画ステージ **BRASS de FOOTBALL**

日本代表
Vs
ブラジル代表



ワールド カップ ロシア大会 2018
頑張れ！ サッカー日本代表



Aida

We are the Champ

Combat March

Samba De Aida



PROGRAM NOTES (第3部)

宇宙の音楽

フィリップ・スパーク

【sphere】[名] 球、球体、天球、半球

【-s】は複数形

音階（ドレミファソラシド）の中で、主要な音程を数比で表現できると発見したのは、ピタゴラスであると言われている。

なんと紀元前6世紀のお話！ピタゴラスは古代ギリシアの数学者であり哲学者。

例えば、ド と ド などのオクターブは 1 : 2 の比である。ド と ソ など完全五度という関係があり、これは 3 : 2 の比である。など、現代でも勉強されている音楽理論の基本を発見した。

この比は難しい数式で導かれたのではない。ある日鍛冶屋の前を歩いたピタゴラスが、トンカン言う金づちの音のうち調和するものがあり、その重さ大きさを調べたところ比があることに気づいた。後に弦を張ったり笛を吹いたりして、正確な比を研究したそう。（現代では弦の長さに当てはまる理論であるが、金づちの重さには当てはまらない）

ピタゴラスは宇宙の音を聴くことができたという。そして「天球の音楽」という理論を唱えた。その説は「宇宙は音階と同じように比に支配されている。惑星はそれぞれ回転しながら音を出している、そして宇宙全体でハーモニーを形成している」というもの。

* 古代では望遠鏡などの技術がなく、肉眼で見える惑星だけを観察していました。当時観察されていたのは「太陽・月・水星・金星・火星・木星・土星」と言われている。宇宙の中心は地球であると考えられており、地球を起点・ゼロ地点として各惑星までの距離と音程の比率を定めていたとされる。

この音は、ピタゴラスだけが聴けたそう… それはなぜか。

宇宙からの音は、常に鳴り続けている。常に聴き続けているわたしたちは、意識してその音をキャッチできないという…

スパーク氏はピタゴラスの「天球の音楽」に魅力を感じてこの曲を作り、そのまま曲名とした（日本では「宇宙の音楽」と訳される場合が多く、かつスパーク氏の曲として通じる）。

曲は7つの場面からなり副題があるが、途切れなく演奏される。

場面① : t=0

楽譜には本当に「t=0」と書かれている。「時間はない、虚無、time=0」ということ。宇宙の誕生（ビッグバン）までは、時間・重力・素粒子・あらゆる全てが宇宙そのものすら、とにかく無だったということ（いま多くの科学者がほぼ確信している考えだそう）を表している。

場面② : THE BIG BANG

ビッグバン！！！！

大爆発とともに宇宙は誕生、猛烈なスピード凄まじいエネルギーで膨張を始める。飛び交う粒子、衝突や融合、光と闇。途中で小惑星や流星群が誕生したかのようなかわいらしいシーンがあり、宇宙か太陽系かが完成したかのように壮大にまとまってゆく。

場面③：THE LONELY PLANET

訳すと「孤独な惑星」、地球のこと。ビッグバンにより発生した熱は次第に冷え、生命体をもつ唯一の星「地球」が誕生。孤独な地球はソプラノサックスのソロで表現されるが、実は月が常にそばにいてくれるということも、ユーフォニウムによって奏でられている。次第に他の惑星もざわつき始める。

場面④：ASTEROIDS & SHOOTING STARS

テンポが上がり「小惑星と流星群」へ。それぞれの軌道に乗り、小惑星や流星が動いている。大きいものや小さいもの、ゆっくりと動くものや、ちょろちょろ速く動くものまで。だんだんと、かつて「外宇宙」と呼ばれ、中世の研究者が「もっと遠くを見たい、研究したい」と願った空間へ。

この場面④は、楽譜にさまざまな工夫がされ拍子が分かりにくい場面が多くある。

途中から、2拍子と3拍子が混ざったようなフレーズが登場するが、スパーク氏によるとこれが『「ケプラーの第三法則」（調和の法則） 惑星の公転周期の2乗は、軌道の長半径の3乗に比例する』を表現しているそう。

場面⑤：MUSIC OF SPHERES

ピタゴラス理論「惑星はそれぞれ回転しながら音を発している」のとおり、6つの音が鐘のように響く。

場面⑥：HARMONIA

「調和」「和音」を意味するラテン語、英語「ハーモニー」の語源でもある。

そう、「宇宙全体でハーモニーを形成している」様子、一体となった調和の音楽が演奏される。

場面⑦：THE UNKNOWN

「未知」。ピタゴラスの世界では、肉眼で見える土星から先は未知であった。その先に何があるのか、はたまた何もないのか、という未知。

また、「人類の貪欲な宇宙探査がもたらすものは、文明の発展か、それとも破壊や破滅か…未知である」という問いもあるそう。

スパーク氏はイギリスの作曲家。

親日家でもあり、日本での人気も非常に高い。

「宇宙の音楽」は、元々はブラスバンド曲として作曲された（ブラスバンド…木管楽器を用いず、金管楽器だけで演奏する。金管バンドと言うこともある）。

2004年、スコットランドで開催されたヨーロッパ・ブラスバンド選手権大会にて、イングランドのブラスバンドで初演され、同バンドは6連覇を達成。氏によって吹奏楽曲に編曲され、同2004年に出版された。

日本語題として「天球の音楽」「天体の音楽」といった表記もある。

Oak Wind Symphony

☆：団内指揮者 ♪：パートリーダー

Conductor

榮村正吾

Flute & Piccolo

♪ 荒井みちえ
石塚琳子
大熊真悠子
小林みなほ
中俣美幸

Oboe

池田茉莉
大植めぐみ
♪ 松林雄一

Bassoon

石井優衣
望月智文

Contrabassoon

奥田三香子

E♭ Clarinet

♪ 広島愛子

B♭ Clarinet

石井敬子
☆ 井上正人
岩下直紀
志水玲子
高島百合野
鳴川みずき
肥野匠真
松林祥代
松宮千恵

Alto Clarinet

河村俊志

Bass Clarinet

清水育子

Contra Bass Clarinet

前田絵理

Soprano

& Alto Saxophone

☆ 小野剛司

Alto Saxophone

池田彩紀
木村真理江
櫻井秋来
♪ 関香子
長島央和

Tenor Saxophone

梅沢洋
西野笑弥
堀下美樹

Baritone Saxophone

河合由葵

Horn

梅村幸世
大滝夏織
♪ 高橋研介
田中美紗樹
友寄浩充
原田木舞
疋田遥香

Trumpet

阿部泰子
木村愛
木村正宏
上妻知世
♪ 佐々木結衣
貞松正樹
佐藤容子
鳴川智也
藤田哲朗

Trombone

草薨真彩
鈴木彩織
高瀬良介
♪ 戸井真智
檜垣美春

Bass Trombone

石毛遥

Euphonium

大川那奈
川口莉奈
♪ 松谷俊介

Tuba

五十嵐史生
伊藤優里
森田遼太

String Bass

松浦清人

Percussion

池見浩
加藤結香
小林由佳
小松幹
☆ 志水栄雄
田中晴菜
♪ 田中祐一

Piano

渡辺麻里



今後の演奏会のご案内

Oak Wind Symphony 第36回定期演奏会

日時： 2018年12月～2019年1月頃予定
場所： 横浜市内公会堂（予定）

♪ ハノーヴァーの祭典 〈P.スパーク〉
♪ ニュー・ロンドン・ピクチャーズ 〈N.ヘス〉 ほか
その他、ビッグバンドステージ、ポップスステージ（予定）

Oak Wind Symphony 第37回定期演奏会

日時： 2019年5月19日（日）
場所： カルッツかわさき ホール
（川崎市スポーツ・文化総合センター）

詳細が決まりましたらホームページ等でお知らせします

<http://oak-wind.sakura.ne.jp/oak/>

《 団員募集について 》

- ◎ 募集条件
高校生以下不可（高校卒業見込の3月から可）
基本的に、ご自身で楽器を用意できる方（打楽器以外）
初心者の方は当団側で受入態勢を整えられない場合があります
- ◎ 練習日： 原則毎週土曜日夕方（本番前は追加練習あり）
- ◎ 練習場所： 横浜市南区を中心とした公共施設
- ◎ 連絡先： meet-oak@oakwindsymphony.sakura.ne.jp

現在、募集を停止していますが、秋頃の再開を予定しています。
募集を再開次第ホームページでお知らせします。



Oak Wind Symphony 公式Twitter

演奏会のお知らせや日常の出来事などをご紹介します。
ぜひフォローしてくださいね！

@oak_wind

